

大草谷津田いきものの里 自然観察会

バッタとカマキリ

遠藤登志子（千葉市）

日時：2020年10月4日（日） 10時30分～12時

天気：曇り

参加者：10名（大人4名、子ども6名）

担当指導員：萩 蔣勝、晝間初枝、遠藤登志子

新型コロナウイルスによる中止からの再開となった今回、様々な防止対策をして始められた。参加者も申し込み制で15人限定だったが、家族単位での申し込みばかりになった。集まった順に、5人前後で1グループを作り、グループごとにスタートして、集合場所まで戻って流れ解散することになった。

私たちの2番目スタートのグループは、市の保全課から、新型コロナウイルスについての注意事項を聞いた後、大草の約束やスズメバチの話をしてから駐車場端の草地へ向かった。足を踏みいれると、ぴょんぴょん飛び跳ねるヒナバッタやオンブバッタ・クビキリギスの幼虫に、子どももお父さんも夢中で捕まえ始めた。しばらくバッタとりをしてから、入り口の植え込みにいたオオカマキリを観察した。

「いろいろなカマキリがいるから探してみよう」と話して観察路をゆっくり探しながら進む。道の上にお腹の大きなハラビロカマキリがじっと動かないでいる。

集まって来た子ども達は、「どうやってつかまえるの?」「こどもがはいっているの?」

「おかあさんなの?」と興味津々。カマキリのつかまえ方を話し、つかまえてみるよう促すのだが、3歳児、5歳児ともこわいとのことだった。

稲藁を干してある場所で、網を振ってオンブバッタやコバネイナゴなどを捕まえる楽しさを満喫し、お父さんが捕まえたノシメトンボとマユタテアカネをチョコキの指で挟み満足した後、1番目スタートのグループが見つけてケースに入れておいてくれたコカマキリやチョウセンカマキリ・ハラビロカマキリ・オオカマキリをゆっくり観察させてもらった。今回は集合場所まで一緒に帰るため、早めに切り上げ帰路についた。

帰り道で、5歳児が「どうしてここにはいろんなものがいっぱいいるの?」と尋ねてきた。妹も捕まえてもらったコオロギの入れ物を両手で大事に持ち続けて満足そうだった。接触を避け、物をやり取りしない観察会だったが自然に触れた参加者の思いを聞くと、制限があってもやる意味はあると感じさせられた観察会だった。

